

レセプト電算処理システム

傷病名マスター

改訂の概要

(平成14年3月)

社会保険診療報酬支払基金

傷病名マスター検討会

傷病名マスター改訂作業委員会

はじめに

レセプト電算処理システム傷病名マスター(以下、「傷病名マスター」という。)は、平成8年7月の改訂以後、その見直しが行われていなかったことから、平成13年7月に支払基金本部へ「傷病名マスター検討会」が設置され、本マスターの改訂案を作成することとし、具体的な改訂作業は、同検討会の作業委員会が行いました。

この改訂作業では、平成13年6月に先行して改訂された「ICD10対応電子カルテ用標準病名マスター(Ver2.00)」(以下、「標準病名マスター第2版」という。)の病名と傷病名マスターの病名との比較分析を中心に、2つのマスターの病名表記の統一と相互のコードの対応付けを行いました。

この改訂作業により、レセプト電算処理システムの診療報酬請求で使用される傷病名マスターの病名と電子カルテ用として提供されている標準病名マスター第2版の病名が一致するとともに、2つのマスターコードの互換性が確保されることとなりましたので、「新傷病名マスター」が、日本における病名に関する用語・コードの標準化の基盤となる病名マスターとして、保健医療分野の情報化推進に少しでも寄与することができれば幸甚です。

<目 次>

傷病名マスター改訂作業方針

1	傷病名の追加	2
2	傷病名の削除	2
3	病名表記の見直し	2
4	傷病名コードの設定	2
5	病名検索用ファイルの追加	2

傷病名マスター改訂作業の詳細

1	保険診療に関する各種通知の病名及び自費病名等の追加	3
2	病名表記の見直し	3
3	病名変更及びコード設定のルール	4
4	病名表記の比較分析	5
5	新傷病名マスター公表用ファイル項目仕様 (マスターファイル仕様説明書に転載)	
6	新傷病名マスターのファイル仕様の説明 (マスターファイル仕様説明書に転載)	
7	今後の検討課題及びマスター活用例	6
8	検討会委員及び作業委員会委員	8

資料編 10

資料 1 診療報酬点数表等の病名の追加 (添付省略)

資料 2 病名表記比較 (ICD10 順) (添付省略)

傷病名マスターの改訂作業方針

傷病名マスターの改訂は、以下の方針で行なわれました。

1 傷病名の追加

- (1) 標準病名マスター第2版の見出し語は原則としてすべて含める。
- (2) 厚生労働省からの保険診療に関する各種通知に収載の傷病名は、可能な範囲で収載する。
- (3) 自費診療しかできない傷病名も、単独では保険請求できないことの区分情報を付与した上で、可能な範囲で追加する。

2 傷病名の削除

- (1) 現行マスターのうち同一疾患を表すと見なせる傷病名が複数ある場合には、標準病名マスター第2版、学会用語集などの見出し語を参考にしてひとつにまとめる。
- (2) 不適切な傷病名、使われなくなった傷病名などは、可能な範囲で修正または削除を行う。

3 病名表記の見直し

- (1) 誤字等を含む病名表記の修正を行う。
- (2) 標準病名マスター第2版と原則として使用文字、カタカナ表記などを一致させる。
- (3) 「(症)」の付く傷病名表記を廃止し、「症」を付けるか付けないかを傷病名ごとに判断する。判断にあたっては、標準病名マスター第2版、学会用語集、識者の意見などを参考にし、後述する病名検索用ファイルからどちらでも検索可能とする。

4 傷病名コードの設定

- (1) 追加される傷病名については、新しく空いているコードを割り当てる。
- (2) 削除される傷病名については、欠番とする。
- (3) ICD-10の4桁分類コード及び標準病名マスター第2版の情報交換用コード(4桁コード)を対応づける。

5 病名検索用ファイルの追加

カナ、英語略語、重要な部分的文字列、(症)の有無による違い、異字体表記などを索引用語として付与する。これらはひとつの見出し語に複数付与される。

傷病名マスター改訂作業の詳細

1 保険診療に関する各種通知の病名及び自費病名等の追加

(1) 各種通知の病名分析

診療報酬点数表に収載されている傷病名を中心に、包括的な状態病名等を除いて約1,300語を抽出し、これについて見出し語として収載する必要があるか分析した結果、大半が見出し語の同義語又は類義語として既に標準病名マスター第2版には収載されている病名と判明し、この分析結果から、新規に追加した病名は、資料1(追加168病名:添付省略)のとおりです。

(2) 単独使用禁止病名等の識別区分の設定

包括的で部位の判断がつかない病名やその病名单独ではレセプト表示等に使用することがふさわしくないと判断した病名等に識別情報を付与しています。

例)

「骨折」、「腫瘍」、「打撲傷」など (単独使用禁止区分)

「自殺」、「自殺未遂」の関連語など (保険請求外区分)

2 病名表記の見直し

今回の改訂作業では、次のとおり病名表記に関する統一を行っています。

(1) 病名の異字体の統一

次の異字体、かな漢字表記法については、傷病名に使用する場合、表記を統一しています。

異字体	統一語	異字体	統一語	異字体	統一語	異字体	統一語
齧蝕	う蝕	拇	母	頸	頸	歇	欠
髮	髪	癆	ろう	腔	腔	條	条
彎	弯	窿	隆	鈎	鉤	疝	仙
臀	殿	穹窿	穹隆	靱	韌	臟	臓
弓隆	穹隆	え死	壊死	鼠	鼠	乳糜	乳び

(2) 病名の()付き表記の見直し

「高血圧(症)」等の()付き傷病名は、「高血圧症」のように変更しています。

なお、傷病名の「症」の有無については、次のとおりとしています。

- ・ 症なし：「結核」「～パチー」「～トロフィー」「不全」「梗塞」「うっ血」
- ・ 症あり：「狭窄」「閉塞」「血栓」「塞栓」「閉鎖不全症」「硬化症」
- ・ 例外：「骨形成不全症」「視野狭窄」「気道閉塞」など。

ここに挙げたのはあくまで例示であり、個々の病名で若干の違いがあります。

(3) 足指、手指関連病名の表記

足の指は、「趾」に統一しています。

(読みは「シ」とします。)

手の指は、特に違和感のないものは、「手指」に統一しています。

(読みは「シュシ」とします。)

3 病名変更及びコード設定のルール

病名表記統一の考え方から、今回の改訂では傷病名について1文字でも変更となった場合は、新設病名として新コード(7桁)を振り出しています。

新コードは、現行の空コードの範囲(8830028～8940002)に意味付けのないユニークなコードを振り出しています。

例)

高血圧(症)	高血圧症	(表記標準化)
現コード	新コード	
4019011	(未定)	

なお、新レイアウトには、病名改訂の異動関連が容易にわかるように、廃止病名等の対応する病名について「移行先コード」を設定しています。

4 病名表記の比較分析

上記の改訂作業で行われた2つのマスターの病名比較分析に関しては、資料2（添付省略）のとおりです。

（1）項目の説明

項 目	内 容
1.病名表記番号	標準病名マスター第2版の病名表記番号
2.病名表記	標準病名マスター第2版の病名表記
3. I C D 10-1	標準病名マスター第2版の I C D 1 0 - 1 コード
4.比較結果	比較分析の結果の分類を表示しています。
5.レセ電算正規化後コード	レセ電算正規化後コードを、縦棒区切りで表現。 （複数あるものはカンマ区切りで列記）
6.レセ電算正規化後病名	レセ電算正規化後病名を、縦棒区切りで表現。 （複数あるものはカンマ区切りで列記）

（2）比較分析結果

病名比較分析の結果については次のとおりです。

ア 対応付けが出来た病名（正規化病名）	<u>10,450</u> 語
内訳） 病名表記が一致した病名	7,631語
修飾語付きで一致した病名	2,800語
異字体等の整理病名	19語
イ 対応付けが出来なかった病名（正規化不可）	<u>8,355</u> 語
内訳） 一致しなかった病名	7,507語
（症）付きの病名	178語
異字体等の整理病名	670語

7 今後の検討課題及びマスター活用例

(検討課題)

(1) 診療報酬点数表等関連通知の病名記載について

指導料等の算定対象病名について、包括的な病名により定められている事例があり、マスターの収載病名に対し、その算定対象病名であるという識別情報（フラグ）を付与するには、判断が困難な病名記載があり、識別情報付与の再検討とともに、次のような病名規定の改善が検討課題とされました。

例) 「悪性新生物」、「末期の悪性腫瘍」等

(2) 医薬品の添付文書に記載されている病名について

作業委員会では、臨床現場で頻用されている病名収載のために、医薬品添付文書（効能効果を中心とした記載）に記載されている病名の収集と分析を行いました。

この分析から判明したことは、医薬品添付文書の病名については、状態病名や慣用的な病名を含め多様な「病名」が記載されていること、漢方薬の効能効果に記載されている病名も同様に多様な病名が使用されていることから、標準化した病名による記載が望まれるとの問題認識となり、今後の検討課題とされました。

(3) 修飾語マスターの標準化について

今回の改訂では、現行の一部の修飾語の誤字修正と病名改訂との関係で必要な修飾語を若干追加していますが、病名マスターの統一・標準化とともに修飾語マスターについても、統一する必要があるとの方向性が作業委員会では確認されました。

追加予定修飾語の一部事例

修飾語名称	修飾語名称（接尾語）
第1趾	A型
第2趾	B型
第3趾	C型
第4趾	D型
第5趾	E型
	の術後

(マスター活用例)

(1) 病名検索用ファイルの活用

マスターに収載された病名を利用者が容易に検索し得るよう、補助用の病名集(同義語、類義語、誤字、異字体等を収載したファイル)として、「病名検索用ファイル」(標準病名マスター第2版で提供されている「キーワードテーブル」と内容は同じ。)を準備して「診療報酬情報提供サービス」ホームページでも提供する予定です。

この検索用ファイルでは、「病名交換用コード」(英数字4桁コード)により病名の見出し語の検索が可能となるようコードを設定しているため、未コード化病名への対応のためにも、このファイルをシステムへ組み込むソフト等が期待されます。

(2) ICD10 コード及び「臨床病名分類階層」の活用

病名マスターの実用性を高め、その普及を図るには、マスターのユーザにとってわかりやすい分類を基にした階層メニューの提供が望まれることから、標準病名マスター第2版の改訂作業とともに作成された「臨床病名分類階層」との関連付けも行えるように、「病名表記番号」は標準病名マスター第2版と同一コードを設定しています。

傷病名マスター検討会委員

- 開原成允 財団法人医療情報システム開発センター（MEDIS）理事長、
日本医学会医学用語管理委員会副委員長
- 石原 謙 日医総研研究部長、愛媛大学医学部教授
- 井上通敏 日本医療情報学会会長、国立大阪病院長
- 大江和彦 東京大学医学部教授
- 山本修三 社団法人日本病院会常任理事、済生会神奈川県病院長
- 西澤寛俊 社団法人全日本病院協会副会長、西岡病院理事長
- 三橋 稔 千葉県社会保険診療報酬請求書審査委員会副審査委員長
- 井原裕宣 東京都社会保険診療報酬請求書審査委員会副審査委員長

座長 （順不同）

傷病名マスター改訂作業委員会委員

大江 和彦（作業委員長）

石原 謙（検討会委員）

開原 成允（検討会座長）

波多野賢二（東京大学医学部附属病院中央医療情報部）

佐藤 恵（（財）医療情報システム開発センター）

田代 朋子（（有）ティ辞書企画）

柏木 聖代（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座）

浜田 篤（北里大学大学院医療系研究科）

上野 智明（日本医師会総合政策研究機構）

渡部 愛（日本医師会総合政策研究機構）

角森 朗（（株）マツケイ）

中橋 望（日本医師会総合政策研究機構）

楊 浩勇（日本医師会総合政策研究機構）

西山 正徳（社会保険診療報酬支払基金審議役）

中井 明（社会保険診療報酬支払基金審査業務部）

保科 芳宏（社会保険診療報酬支払基金業務システム部）

（順不同、敬称省略）

本資料について

この「傷病名マスター改訂の概要」については、本年3月28日開催の第3回「傷病名マスター検討会」で報告された内容について、傷病名マスター改訂作業委員会の最終修正及び日本医学会医学用語管理委員会の監修も加味して一部表現等を修正しております。